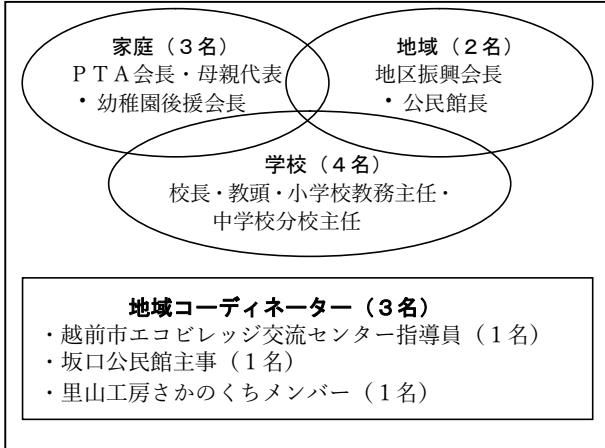


令和元年度 福井型コミュニティ・スクール 実施報告書

坂口小学校・武生第二中学校坂口分校

1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- 第1回 4月26日(金)
・スクールプランの説明
・本年度の計画について
- 第2回 11月1日(金)
・本年度の研究について
・地域連携事業について
- 第3回 3月16日(月)
・学校評価の結果報告
・次年度の計画

(3) 協議会における成果と課題

働き方改革の推進にあたり、子供と向き合う時間の確保という観点から説明し、理解を得ることができたと感じている。行事精選について更に検討しながらも、地域連携事業を「家庭・地域・学校ぐるみ」の取組となるように協力し合い、お互いがやって良かったと思えるような活動となるように努めることで、信頼関係を維持していくことが必要である。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

本校は、自然豊かな坂口地区にあり、校舎裏には小高い山、周りには田畑が広がっている。小中併設で、全校児童生徒34名の小規模校である。坂口地区は、人口減少に伴う地域の活性化が課題となっている。学校で行っているもち米作り等の体験活動や地区行事への中学生の参画などは、地域の活性化に寄与するとともに、ふるさとへの愛着や誇りも育むのではないかと考える。また、地域の方との交流により、お互いをよりよく知ることもできる。ここでは、地域のよさや特性をいかし、地域と連携した2つの取組みについて、その概要や成果について報告する。

(2) 活動の実際

①坂口のよさ はっけん!はっしん!プロジェクト

今年度は、越前市役所新庁舎で学校の取組みや特産品の販売を行うことにした。

坂口地区の「里山工房さかのくち」では、地元の大豆を使って味噌を作っている。地元では、美味しいと評判で学校給食にも使われている。本校の3・4年生は、総合的な学習の時間に大豆を栽培し、工房の方と味噌作りを行っている。今年度は、この味噌を使って「味噌かりんとう」を作ることにした。児童は、工房の方から作り方を教わり、味噌の量を変えたり、蜜を白砂糖や黒砂糖で見栄えを比べたりして完成させた。1袋に入れる量や値段も話し合っ決めて、「坂口の味噌をもっと使ってもらおう。」と、レシピも添えることにした。

また、坂口の木を使い、学校裏山で拾ったどんぐりや木の実を飾り、オブジェも完成させた。児童がデザインした焼印で、学校のシンボルマーク「ハッピー山」の印も入れた。昨年度開発した「坂口どらやき」「米粉クッキー」に「味噌かりんとう」「さかぐちオブジェ」も加え、量も増やし、準備を進めた。5・6年生は、越前市が「多文化共生」に取り組んでいることから、市役所には外



【福井新聞 令和2年2月7日(金)】

国人も多く訪れるのではないかと、商品の看板やレシピに英語やポルトガル語を書き入れていた。

発表当日は、1年生が各階にチラシを配り、地域の方と協力して会場の設営・販売をした。5・6年生の児童は、坂口の自然や学校での米作りを中心とした取組みについて発表した。会場には、市役所の職員、市民、地域の方が多数来場し、発表に聞き入っていた。商品の紹介もし、「自然豊かで私達の誇りである坂口地区にぜひお越しください。」と呼びかけていた。

手作りのラベルや看板など、児童のおもてなしの心が来場者に伝わり、児童に「おいしそう。」「すごいね。頑張ってる。」と声をかけていただくなどして、多くの人が児童の活動に感心していた。

②坂口活性化プロジェクト

学校では、昨年度より、「坂口活性化プロジェクト」に取り組んでいる。坂口地区の65歳以上の高齢者の割合は、地区全人口の約4割以上を占めているが、若者の担い手不足により、その多くは、この地区の貴重な働き手となっている。この実態を踏まえ、地域の活性化を図るには、イベントの開催や特産品の開発といった外的環境整備だけでなく、地域に住む「人」に活力を与える場の提供や「人」



【公民館主催「高齢者教室」】



【福井ふるさと教育フェスタ】

にやさしい環境づくりなど内的環境整備も必要と考えた。

昨年度は、公民館の主事である地域コーディネーターの勧めで、作業療法士に来ていただき、「高齢者の側に立って、高齢者をどうサポートするか。」について考える機会をもった。今年度は、市の長寿福祉課の保健師から、高齢化問題研修会を開催していただいた。市全体で「高齢化問題」が注目されていることを知り、改めてこの取組みの必要性を実感することができた。また、今年度は更に、公民館主催の「高齢者教室」にも参加し、認知症の予防についての話を聞いた。仁愛大学の先生から「笑うこと」の大切さについて話を聞き、高齢者の方と笑いながら体操をしたり、手をつないでダンスをしたりして、楽しく交流をした。

さらに、学んだことを生かそうと、学習発表会に長寿会の方を招いたり、各町内の「高齢者サロン会」に出向いたりして、高齢者の方に体操を教えたり、一緒にゲームやクイズをしたりして、楽しい交流を続けている。これらの取組みは、県主催「福井ふるさと教育フェスタ」で紙上発表をし、また坂口公民館主催の「健康講座」においても地域の方に紹介した。

(3) 地域コーディネーターの活動概要

地域側の代表として学校とのパイプ役となっていただき、企画から運営まで、全体を掌握し活動が円滑に進むように動いていただいた。

(4) 特に工夫した事項

- ・昨年度の活動の成果や課題を踏まえ、学年・発達段階に応じた児童生徒の主体性を重視し、無理なく継続した活動になるよう計画した。
- ・地域の方や外部との連携を密にし、活動の趣旨を十分に理解していただき、共通理解のもと、早め早めに連絡を取り合い、活動を進めるようにした。

(5) 成果と課題

小学生の市庁舎での発表等の体験活動は、自分達で考え、やってみたことが「うまくできた」「坂口のよさをたくさんの人に伝えられた」という喜びや達成感につながった。また、学校での取組みを発信したことは、学校・地域の活性化に貢献でき、また、ふるさとへの愛着や誇りを育むことにつながった。地域行事への中学生の参画は、生徒の郷土愛を育むと共に、地域の方とのつながりを深め、それ自体が高齢者および地域の方々の精神面での活力につながった。

一方で、地区との連携が進めば進むほど、学校に対する要望や負担も高まり、その調整が課題となっている。今後の活動の方向性について、地域コーディネーターと話し合い、連携をとりながら、地域、学校にとって無理のないよう進めていく必要がある。